



福井県PTA

◆発行者：福井県PTA連合会 会長 木村正俊 広報委員会
◆発行所：〒918-8135 福井市下六条町14-1 (福井県生活学習館2階) TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333
◆ホームページ：http://www.fukui-pta.jp (社)日本PTA全国協議会 http://www.nippon-pta.or.jp/
◆E-mail：mail@www.fukui-pta.jp



CONTENTS

◆会長あいさつ	2	◆生涯学習委員会報告	7
◆第59回日本PTA全国研究大会 ひろしま大会に参加して	2	◆PTA「あいさつ運動」の調査にご協力ください	7
◆予防接種で感染症から子どもたちを守ろう	3	◆福井県幼・小・中PTA活動『地区別研修会』	8
◆東日本大震災にかかる支援活動『サマーステイ イン 福井』	4	◆県P揭示板	8
◆子育て研修会が行われました	6	◆編集後記	8



予防接種で感染症から子どもたちを守る

福井県PTA連合会 安全審査委員会

(田中病院院長) 田中 廣昌



この程、国や県から平成二十二年度の定期予防接種(麻疹、風疹 第一・四期)

実施状況が発表されました。

結果は表に示すとおりですが、我が福井県の接種率は全国平均を大きく上回り、保護者の理解や関心の高さが見てとれました。

実施主体が市町ですので、ばらつきはありますが、一〇〇%の市町も三分の一ありました。また、一期、二期はわりあい良いのですが、平成二十年度から実施された三期、四期になると接種率が下がる傾向がみられます。

未接種者への、さらなる積極的な接種勧奨が大切だと思われま

〈予防接種の必要性〉

予防接種は人類の繁栄に大きな貢献をしてきました。今や子供達が感染する伝染病は殆ど撲滅されたように思われます。

平成十二年には、世界保健機関が日本を含む西太平洋地域のポリオは根絶されたと根絶宣言をしました。しかし、日本の近隣諸国では未だに流行している病気です。

国際交流の盛んな現在、国内では

殆ど見られなくなったといっても、病原菌はいつでも、どこからでも簡単に侵入してきます。予防接種は感染症の流行を防ぐとともに、かかっていても軽症ですむようにするための手段です。

赤ちゃんは母親からもらった免疫がありますが、その効力も生後三ヶ月程で消失してしまいます。そのお手伝いをするのが予防接種です。また、結核のように母親から免疫をもらうことができないものもあるので、新生児が感染する危険もあるのです。

〈予防接種は義務?〉

平成四年に予防接種法が改正され、「受けなければならない」義務接種から「受けるように努めてほしい」という推奨接種になりました。従って、受けるか受けないかを決めるのは、まさに保護者なのです。

ワクチンさえ接種していれば防げる病気で、健康や命を損ねる子供達が日本にも沢山います。病気がかかったときのリスクはもちろんですが、百万分の一程度起こるとされている重篤な副反応など、接種によるデメリットのことも考えて判断する必要があります。

予防接種には個人の感染予防という目的のほかに、社会全体として免疫水準を高めることにより伝染病の流行を防ぎ、社会の安心安全を確保する大きな目的があります。

今まで予防接種の副作用とされていたものの多くは有害事象であって、局所反応や軽い発熱などは真の副反

応とは違います。

確かに、一〇〇%安全とは言えませんが、世界では予防接種が受けられないために命を落とす人が、毎日千四百人もいるそうです。

〈ワクチンの種類〉

予防接種で使う薬剤をワクチンと呼びます。ワクチンには生ワクチンと不活化ワクチンの二種類があります。

生ワクチンはポリオの生ワクチンでおなじみですが、生きた細菌やウイルスの毒性を弱めたもので、ポリオワクチン、麻疹風疹混合ワクチン、麻疹ワクチン、風疹ワクチン、BCG、水痘ワクチン、おたふく風邪ワクチンなどが挙げられます。

これを接種することによりその病気にかかった場合と同じように免疫力がつきます。接種後から毒性を弱めた細菌やウイルスが増殖するので、軽い局所反応や発熱がみられることもあり、十分な免疫ができるまでに約一ヶ月の期間が必要です。

不活化ワクチンは、細菌やウイルスを殺し毒性を無くして作られたもので、体内での増殖がないため一定の間隔をおいて数回接種したり、さらには長期に免疫を維持するために、一定の間隔をおいて追加接種が必要になったりします。

ジフテリア百日咳破傷風混合ワクチン、ジフテリア破傷風混合ワクチン、日本脳炎ワクチン、破傷風ワクチン、インフルエンザワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸癌ワクチンなどが不活化ワクチンです。

勿論、ワクチンは全ての感染症に対

して作れるわけではなく、細菌やウイルスによっては、作れないものもあります。

〈予防接種プログラム〉

予防接種法に基づく定期の予防接種は、市区町村が行うことになっています。また、法に基づかない任意の予防接種もあります。

病気にかかりやすい時期を考慮して定期予防接種の対象年齢が設けられていますので、出来るだけこの時期に受けることをお勧めします。保護者への通知は原則、個別通知で行われますが、市区町村のスケジュールや子供さんの体調、病気の流行などを勘案しながら、多少時期がずれても、確実に接種を受けましょう。

平成22年度 麻疹 風疹 定期予防接種状況

	全国 (%)	福井県 (%)
第一期 (生後12~24ヶ月)	95.6	97.7
第二期 (小学校入学前1年間)	92.2	95.6
第三期 (中学1年相当)	87.2	95.2
第四期 (高校3年相当)	78.8	90.0

例年の特別委員会は、県議会・国会議員への請願・要望活動の原案を考えたり、教育諸問題の研究や社会教育諸団体と交流したりすることが主な役割ですが、今年度は東日本大震災に関わる被災支援活動を担当するという大仕事がありました。

具体的な動きとして、三月十一日の震災直後から、被災児童への支援に向けて情報収集を始め、日本PTA全国協議会・東海北陸ブロックが足並みをそろえて支援を行うための共同宣言の取りまとめと並行して、各連合会独自の支援活動を始めました。

四月上旬には木村会長はじめ東海北陸ブロック各会長が直接宮城県庁を訪ね、子どもたちの一時受入れ支援活動の案内と被災地側の窓口としての要請を行ってまいりました。

福井県PTA連合会としては、各単位PTAごとに震災募金を行なうと共に、子どもたちの一時受入れ事業としてホームステイ受入れ家庭の募集を開始し、五月のGW明けまでに八百三十二件のお申し込みを頂きました。被災地に思いをはせ、子を持つ親として被災児童たちに出来る事を応援してあげたいという熱いメッセージを多数寄せて頂き、事務局としても心温まる時間を共有させて頂きました。

しかし、五月上旬には受入れ体

制が整ったものの、一向に被災地からの受入れ要請の連絡が入りません。メディアでは、避難所や被災した自宅での過酷な生活環境で暮らしている子どもたちの情報が連日のように報道されていましたが、六月後半に入っても要請が無いことを受けて、私たち福井県P連は特別委員会を招集し、夏休み期間中の短期受入れ事業として八月五日から三泊四日の日程で『サマーステイ イン 福井』を企画しました。対象を、原子力発電所事故



による放射能汚染が心配で満足に外遊びが出来ない子どもたちが多く、いと聞く福島県内の子どもたちが

かかる支援活動

『サマーステイ イン 福井』

～来る夏休み～

大嶋 良雄



PTA連合会とも連携して四十五名の小・中学生を福井に招待する事となりました。申し込み頂いているホームステイ登録家庭の中から、今回は福井市内のご家庭に日程のご都合をお聞きし、福島から来る子どもたちの年齢性別などを考慮して、二十九家族にホームステイ受入れをお願いしました。

八月四日の午後、福井県PTA連合会特別委員二名を乗せて、福島へ迎えるバスが発発！翌五日朝七時に福島県いわき市を、八時に郡山市をそれぞれ出発し、午後五時前に福井市内に到着。ホームステイ受入れ家庭との交流会を終えて、それぞれの家庭へと向いました。

ちようどこの夜は、足羽河原での福井花火大会が開催されており、「福井の花火大会が中止になったので、福井の花火がとっても思い出深かった」と後日感想を寄せてくれた子どもがいました。



六日は、子どもたちが楽しみにしていた化石発掘体験と恐竜博物館の見学。さらに午後からは坂井市に移動して芝政ワールドの屋外プールで久々の水遊びを思いっきり楽しみました。『恐竜と出会う夏休み』のサブタイトル通り、思い出に残るひと時を過ごして頂けたのではないかと思います。

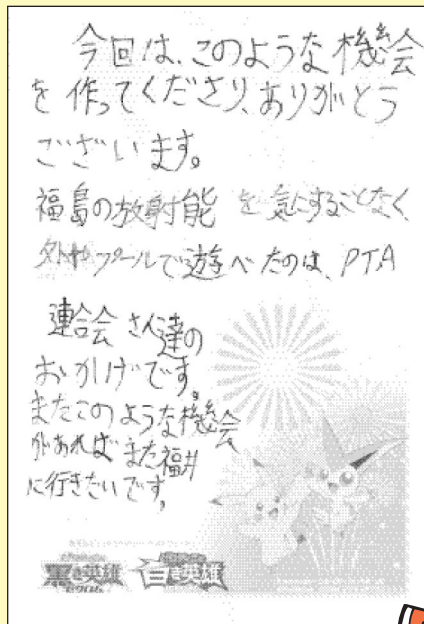


三日目の日曜日は、ホームステイ家庭とゆつくり過ごしてもらい、八日の早朝、恐竜弁当をお土産に福井を出発しました。福島県各所に子どもたちを送り届け、九日早朝送迎バスが帰福して今回の事業を大きな事故なく無事終える事が出来ました。

残念ながら、福島を出発直後におたふく風邪を発症し、病院のベッドで二泊したままご家族に迎えに来て頂いた女の子もいましたが、残り四十四名の福島の子どもたちは貴重な福井での夏休みを満喫できたものと思います。

旧盆前のお忙しい時期に子どもたちを受け入れて下さった二十九家族の皆様、たいへんお世話になりました。また四日間の活動の際、県立恐竜博物館をはじめたくさんの方々にお世話になりました。子どもたちの笑顔が輝いていました。そして今回の受入れ事業の共催団体として全面的にご協力を頂いた福井県教職員組合の皆様には事前準備段階から恐竜博物館や芝政に

何度も足を運んで頂き、当日のバス添乗から、芝政での安全確保まで、物心両面にわたるご支援をいただいたおかげで、福島の子どもたちに福井の夏休みをプレゼントする事が出来ました。



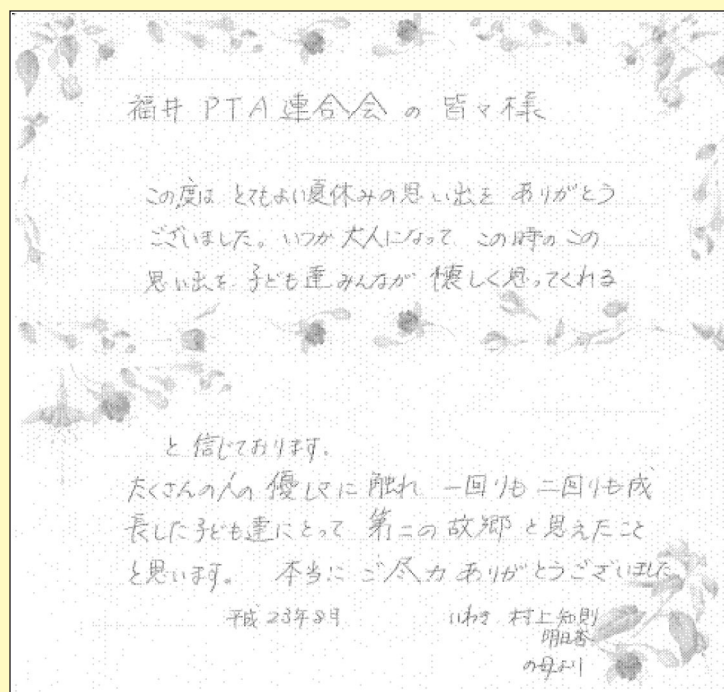
東日本大震災にか

『サマースデー』 ～恐竜と出会え

特別委員会 委員長



今後も被災児童の支援活動が続ける方針を掲げながら、被災されたご家族・子どもたちが何を望んでいるのか、我々がどんな支援を継続的に行っていくのかを十分に調査し、話し合う中で活動を進めていきたいと考えています。被災地の復興はこれからです。支援活動を風化させずに、継続的な取り組みとなる様、更なるご支援ご協力をお願い致します。



『子育て研修会が行われました』

子育て委員会

委員長 別段 朋子



八月六日大野市学びの里「めいりん」において、第三十回福井県PTA連合会子育て研修会が行われました。猛暑の中、また夏休みの土曜日にもかかわらず県内各地より二百七名の参加をいただきました。

今年度は、「父子笑伝」笑育のすすめ」と題し、坂井市を中心に子育て支援活動を推進されている父親支援NPO法人パパジャングル代表の荒巻仁（通称あらじん）氏に講演をしていただきましたので、その講演内容をご紹介します。

現在、千坪の広い敷地と民家を改装して、“冒険遊びのプレーパーク”を常設し、男性スタッフとともに地域の子どもたちを育てている。この活動は、子どもの自己肯定感を育み、生きる力や喜びを自ら学ぶことにつながっていると思う。

《あらじんさんの生い立ち》

父親からの想像を絶するDVに悩まされ、母親を守るような生活から、二重人格のように良い子を演じるという、歪んだ日々を過ごしてきた多感で壮絶な生い立ちが根底にある。

「来世では人間として幸せになりたい」との思いで寺に修行に入り、そこで妻と出会い、十一年前に福井へ。我が子の感動的な誕生・成長から、家族の幸せ、父親の喜びを感じるとともに、「苦しみは幸せの前兆」だとも思えた。

《父親力》

パパの子育て範囲はとても広く、我が子だけでなく妻のサポートに始まり、地域の子育てへ…イクメンからイクメンへ。

私の地域活動は幼稚園の保護者会役員から始まったが、とても楽しいものだった。絵本読み聞かせが、パパジャングル結成のきっかけとなった。自分自身が楽しめる場所を探してたどりついたのが、「パパジャングル」である。

《父親の背中》

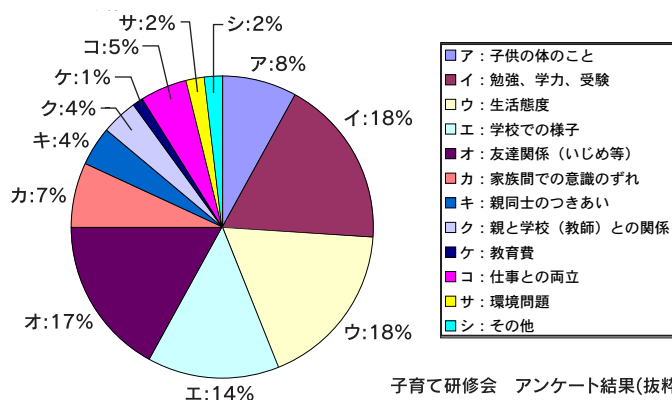
今、日本の子どもたちは将来の夢を持ってなくなっている。子供は親の背中を見て育つというが、今の父親は忙しすぎて背中すら見せられない。期間限定の子育て時代につきかり子どもと向き合って笑顔を見せよう。

「大人って楽しいよ」「人生は楽しいことがいっぱいあるよ」というメッセージを伝えられれば、夢を持てるようになるのでは…これがまさに「父子笑伝」。



父親が笑えば子どもも笑い、家庭も地域、社会も笑えるはずだ。
良い父親ではなく、
笑う父親になろう!!

子育てしているとき、気になること(心配事)は何ですか？



途中、「ヤカンのおかんとフトンのおとん」という、沸騰したヤカンのように怒ってばかりの母親と休日寝てばかりの父親の話をユーモラスに読み聞かせしてくださり、楽しく有意義な講演でした。参加者からも「昨日はまさしくヤカンのおかんでした、反省です。」また、「おやじの会がたくさんできると良いですね。」など感想が寄せられました。

最後に：関係各位のご協力に深く感謝いたします。ありがとうございました。

生涯学習委員会報告

生涯学習委員会

委員長 加藤 直美

生涯学習委員会では、家庭での生活習慣のきまりと家族間のメッセージを募集した「二筆啓上・我が家の三原則」の取り組みをしております。この取組みは二〇〇四年度から実施しており、二〇〇八年からは更に親子の絆を深めようと往復書簡形式で作品を募集しています。

今年も夏休み前に、県内の小中学校に配布しました。

また、十二月には「研究大会」を行う予定です。スローガン「話そう！笑って 抱きしめて くほやの、みんな でやろっさ」に沿った講演を含め、県PTA連合会各委員会活動の報告、そして二筆啓上・

我が家の三原則」で応募された方々の中から入賞者発表と表彰を行います。と考えております。

東日本大震災後、家族の「絆」を意識する人が増えているといわれますが、被災者を思い、家族のあり方を再度考え、親子の

コミュニケーションをより一層深めていってほしいと願います。

基本的習慣を身につけることはまず、家庭で行うべきであり、当たり前の原則ではありますが、これを二つのきっかけとして再認識できたらよいかと思えます。普段はなかなか気づかない「絆」を感じ、身近に安心を与えてくれる存在があるということを確認してください。

保護者の皆様のご理解とご協力を頂き、親子ともに行動し、学び、成長することで、これら事業は成り立ちます。子どもたちの健全育成に役立てると同時に、親の自発的な取組み「親育て、親学」にも生かしていきたいと考えております。

会員一人ひとりの意識向上を図るためにも、委員一同活動してまいります。

「我が家の三原則」をつくろう！

話そう！笑って 抱きしめて くほやの、みんな でやろっさ

●笑顔で話そう！
●生活リズムをととのえよう！
●楽しい家族時間をひこう！

★親子のメッセージ
一筆啓上・我が家の三原則 募集します！
募集期間 平成23年9月9日(金)

応募方法
①応募票
②応募方法

応募用紙

PTA「あいさつ運動」の調査にご協力ください

環境委員会

委員長 浅野 好一

環境委員会では本年度、福井県PTA連合会として、各単位PTAでの「あいさつ運動」に関するアンケート調査をいたします。九月を調査月間としますので、各単位PTA事務局へ別紙の調査用紙をお届けいたします。PTAの役員等で回答をお願いします。

締め切りは、十月三日(月)とします。

あいさつは、とても小さな活動かもしれませんが、東日本大震災の後、何度もTVで見た通り、あいさつは「魔法のことば」です。人と人があいさつを交わすことで

新たな絆が生まれることを子どもたちも感じています。

「絆」について深く考えさせられた今年、改めて「あいさつ」について考えることは良い機会であると考え、今回の調査を実施します。

家庭はもちろんのこと、学校で、地域で、「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」「ごめんなさい」といったことが頻繁に行き交う環境ができるようにしたい、と考えます。

調査の中で特色ある事例は、他の学校のPTA活動の参考にしたいだけだと思いますので、あいさつ運動の映像や資料等があれば、ぜひ、福井県PTA連合会事務局へメールやFAX、CD等での送付をお願いいたします。

福井県PTA連合会 環境委員会 行
FAX 0776-41-4333 E-mail: mail@www.fukui-pta.jp
提出締切 10月3日(月)

PTAあいさつ運動についての調査

学校名	(市町村)	中学校・小学校
あいさつ運動の有無	有	無
実施主体	① PTA ② 学校 ③ 生徒・児童会 ④ その他()	
いつしているか	① 朝、登校時 ② 夕方、下校時 ③ その他()	
どこで実施	① 校門前 ② 通学路 ③ その他()	
実施の頻度	① 毎日 ② 1回/1週間 ③ 1回/2週間 ④ その他()	
どのような活動か具体的に記入してください。		
PTAの参加者	① 全会員対象 ② PTA役員対象 ③ 役員の中の一部対象 ④ その他()	
PTAへの参加の呼びかけ方法	① PTA連絡網 ② 広報誌 ③ 児童生徒を通じて ④ その他()	
PTAとしての役割	① 見守り活動との関連は ② 地域との連携は ③	
この活動後の児童生徒の効果		
今後の更なる計画		

※ あいさつが、子どもたちの生活の一部になるために他に行っている活動がありましたら、お知らせください。今後のPTAの活動の参考にさせていただきます。また、特色あるあいさつ運動の事例がありましたら、その資料や写真を添付してください。

ご協力ありがとうございました。



平成三十二年度
福井県幼・小・中PTA活動
「地区別研修会」終了しました！

福井県PTA連合会

副会長 白越 不朝

今年度も県生涯学習センターとの共催のもと、六月二十五日の坂井地区を始めとして県下五地区において研修会が開催されました。各会場では、主催者代表の挨拶の後に開催地の教育長よりご祝辞を賜りました。それぞれの地区において、その後の講演会では、「話し方」や「子どもたちとの接し方」などの人としての大事なコミュニケーションの再確認や、「AEDを通してのいのちを救う心を育てる」など自分のいのちを今一度考える内容もあり、とても素晴らしい時間でした。



続いて、各单位PTAの実践発表および意見交換会を行いました。各発表は、「親子のふれあい活動」「バザー等のサポート活動」「安全のための自主活動」など特色のある活動内容が紹介されました。特にバザーなどの活動資金づくりの意見交換会は活気にあふれる場となりました。幼稚園では母親の力を結集しての活動、小学校では地域と力を合わせた活動、中学校では子どもの自主性を引き出し、PTAは後ろから見守る活動など、子どもの成長に合わせた内容でした。

三月十一日の東日本大震災以降、私たちは多くの人々のおかげで生かされているというあたりまえの事に気付かされ、子どもたちがいるというありがたさを改めて感じています。本研修会は「あたりまえ」を再確認し、PTA活動に積極的に取り組む必要性を教えてくださいました。今後この地区別研修会を継続し、一人でも多くの会員の皆様参加をお願いします。

三月十一日の東日本大震災以降、私たちは多くの人々のおかげで生かされているというあたりまえの事に気付かされ、子どもたちがいるというありがたさを改めて感じています。本研修会は「あたりまえ」を再確認し、PTA活動に積極的に取り組む必要性を教えてくださいました。今後この地区別研修会を継続し、一人でも多くの会員の皆様参加をお願いします。



平成23年度 福井県幼・小・中PTA活動地区別研修会

	講演	実践発表PTA
坂井地区	6月25日 カルチャークラブ北陸話し方教育センター 代表 栗田 隆司 氏	平草小学校 芦原中学校
丹南地区	7月 2日 ヒューマンコミュニケーション米沢研究所 所長 米沢 豊穂 氏	進徳小学校 中央中学校
奥越地区	7月 3日 元福井商業野球部監督 北野 尚文 氏	蔵生小学校 成器南小学校
福井・永平寺地区	7月 9日 NPO法人 命のバトン命をつなぐ心を育てる会 代表 川 眞弓 氏	新田塚幼稚園 円山小学校 大安寺小中学校
嶺南地区	7月16日 福井大学教育地域科学部 教授 寺岡 英男 氏	西浦小学校 角庭中学校



県P掲示板

今後の活動案内

■第五十三回福井県PTA研究大会

日 時：平成二十三年十二月十日（土）
テーマ：話そう！笑って抱きしめて
～ほやの、みんなでよろこばせ～

講演：瀨川文子氏（コミュニケーションアドバイザー）
会場：福井県生涯学習館 多目的ホール

■県PTAゆめ基金・小規模校支援募集月間
平成二十四年一月

■県PTAゆめ基金協力月間（書き損じハガキ等の回収）
平成二十四年二月

■PTA諸活動関係者の表彰推薦期間
平成二十四年二月

■平成二十三年度県PTA活動のまとめ冊子・広報紙一〇四号の発行、配布
平成二十四年三月

■平成二十三年度広報紙コンクール作品募集
平成二十四年三月

編集後記

暑かった今年の夏、皆様は「節電」できましたか？
東日本大震災で被災された方々の、ご心労、ご苦労に比べれば、節電くらい・・・と思いつつエアコンのリモコンに手が伸びる日々。今更ながら反省しきりです。
そんな夏のさ中、八月に福島県から招いた子どもたちの、たくましい笑顔と大粒の汗は、私たちの心に残るとても大切な贈り物だった気がします。

お蔭様で、広報紙一〇三号の発行となりました。
作成にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

広報委員会 委員長 角内 宏幸